

時間割コード	G1D11615	開講年度	2026			
授業題目	プラクティカル・イングリッシュ（初級）				担当教員	藤原 隆史
英文授業名	Practical English					
単位数	1	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・1時限	対象学生
講義室	共通教育401演習室		授業形態	実習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】	
	大学D P					
	学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力				英語を使い他者とコミュニケーションを取ることができるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	日常英語やビジネス英語など実用的な英文（ 広告・案内文・手紙など ）を読み、日常的な英会話を聞き理解する。併せて、実用的な英語表現・文法・語法・コロケーションの確認、ビジネスや日常場面での頻出語彙の確認、リスニング・リーディングの演習も行うことにより、プラクティカルな受信型の英語コミュニケーション能力（主にリスニングスキル及びリーディングスキル）を養っていく。結果として、英語資格試験において求められるスキル（語彙力・文法力・リスニングスキル・リーディングスキル）の習熟にもつながる。					
(5)授業のキーワード	Practical English Listening Skill Reading Skill					
(6)授業計画	1. ガイダンス・シラバスの確認など 2. Unit 1: Intercultural Communication in Today's World 3. Unit 2: English for Intercultural Communication 4. Unit 3: Important Features of Human Communication 5. Unit 4: The Concept of Culture 6. Unit 5: Language and Thought 7. Unit 6: Communication Styles 8. Unit 7: Human Psychology and Communication 9. Unit 8: Speech Acts across Cultures 10. Unit 9: Stereotypes and Intercultural Communication 11. Unit 10: Cultural Accommodation in Intercultural Communication 12. Unit 11: Intercultural Communication in Higher Education 13. Unit 12: Study Abroad and Intercultural Adaptation Part 1 14. Unit 12: Study Abroad and Intercultural Adaptation Part 2 15. Unit 13: Intercultural Competence for the Futureと授業アンケート 16. 期末考査 なお、スケジュールに変更がある場合には、e-ALPSでお知らせします。					
(7)成績評価の方法	授業の習熟度を測る課題（教科書のVocabulary, Comprhension Questions, 確認テストを解いてeAlps上で提出）(40%) 期末テスト(40%) TOEIC IPテストのスコア(10%) （評価点(10%)へのスコア換算式：取得スコア×0.018 【上限10%】） 「Practical English 9 (Reallyenglish)」の自学自習(10%)					
(8)成績評価の基準	授業で解説した内容と同レベルの問題が 60%以上解ければ「合格水準にある(可)」 70%以上解ければ「合格水準よりやや上にある(良)」 80%以上解ければ「合格水準よりかなり上にある(優)」 90%以上解ければ「卓越している(秀)」とみなす。					
(9)事前事後学習の内容	この授業は1単位のため、15時間以上の授業時間外学習を必要とします。 教科書のVocabulary, Comprehension QuestionsにeAlps上で解答。（1時間）					
(10)履修上の注意	授業への積極的な参加と定期的に出題される課題への意欲的な取り組みが必要です。また、授業外の時間に、なるべく多く英語にふれる機会をつくるようにしてください。					
(11)質問,相談への対応	メールにて対応します。 takafuji@shinshu-u.ac.jp					
(12)授業への出席	・全ての回に出席することを基本とします。 ・授業を4回以上欠席した場合、この授業の達成目標に到達することができないため、成績評価の対象外（評点は0点）となります。 ・感染症報告システムに登録し「出席停止」と判断され、授業に出席できなかった場合は欠席とはみなしません。 ・「学修の補充の対象とする事由」（『共通教育履修案内』参照）により、授業に出席できなかった場合は欠席とします。					

(13)授業に出席できない場合の学修の補充	・「出席停止」により授業に出席できなかった場合は、健康安全センターからのメールを担当教員に転送して、学修の補充に関する指示を受けてください（『共通教育履修案内』参照）。 ・「出席停止」ではなく「学修の補充の対象とする事由」（『共通教育履修案内』参照）により出席できず、補充を希望する場合は、所定の方法（『共通教育履修案内』参照）により、共通教育窓口で申請してください。（この場合は、出席扱いにはなりません。）
【教科書】	Troy McConachy他, Intercultural Communication for English Language Learners in Japan 英語学習者のための異文化コミュニケーション, ISBN-13:978-4523178460, 南雲堂, 2017, 2000円（税別）
【参考書】	必要に応じて授業中に指示します。